



繪本倭詩經

松

^13
4488
1





繪本
大和詩經

盤桂禪師
歌



席

樵歌とて首、安ん是

あ車の装他人の年々

を以て之のや其沖綱の

遙遠禪師制す人の相

教有あり今注解とあり

且くうゝ画をいへり樵歌

奴婢へ便あり

の和唐富く大

馬山樵史書

父^{ちち}母^{はは}様^{さま} 皇^み女^め 父^{ちち}母^{はは} 子^こ



賢^{けん}神^{かみ}ハ



父母^{ふぼ}覆^{おほ}育^{いく}提^{てい}挈^{けつ}の恩^{おん}德^{とく}其^{その}とたりをうりてん^{てん}の恩^{おん}ハ山^{さん}よりも高^{たか}く人^{ひと}小^こ
 須弥^{しゆみ}山^{さん}五^ご岳^{とく}もたぐらふをうりてん^{てん}の恩^{おん}ハ海^{かい}よりも深^{ふか}く人^{ひと}小^こ
 かつて浅^{あさ}く易^{やす}日^ひ乾^{かん}天^{てん}也^{なり}故^{ゆへ}称^{しょう}乎^こ父^{ちち}坤^{こん}地^ち也^{なり}故^{ゆへ}称^{しょう}乎^こ母^{はは}也^{なり}淮南^{なんべん}子^し精^{せい}神^{しん}訓^{くん}
 小^こ以^{もつ}天^{てん}為^な父^{ちち}以^{もつ}地^ち為^な母^{はは}とみたり者^{もの}ハ則^{すなはち}天^{てん}神^{かみ}皇^み女^めハ則^{すなはち}地^ち神^{かみ}信^{しん}ある哉^や父^{ちち}母^{はは}に
 賢^{けん}神^{かみ}ハあるべし

孤は
月か
遠
る
は



孔子言少者懷之孟子云幼吾幼以及人之幼と云ふ少あるものとば寵愛
と云ふこと親類めてれくともつがふと慈と云ふこととありや
孤児人の侮とのあは目みくく慈と云ふこととありや
と侮と云ふこととあり

教
門
小
月



酒小破ていねとれいばきりさういひと海にみてもし人にな後後台といこ一青段を
 かし着經を忘る後にも人の心なまといさりの酒と女にあくはとたすりまといさりかたやうあ
 の災難悪事多く酒色よりをこれとけ文酒と色といふの戒之本末出第といふ名利の世とて
 是あひの家は出つるといふ家世に流るゝ名利とるるをさかをさるゝ今時の出あゝ家と
 雲にまゝといふも却て名利とさるとせり多といひ形は後人よりてその名名利小はるまじ
 後の出あゝなり星城と深するといふは後上人の前に深むる人の内は星城小夜のい
 ちふもかきにも又星城和尚のいふいふ小拾あり分れとけくハ後人よりてよとてみよめのかで

酒と飲と女師

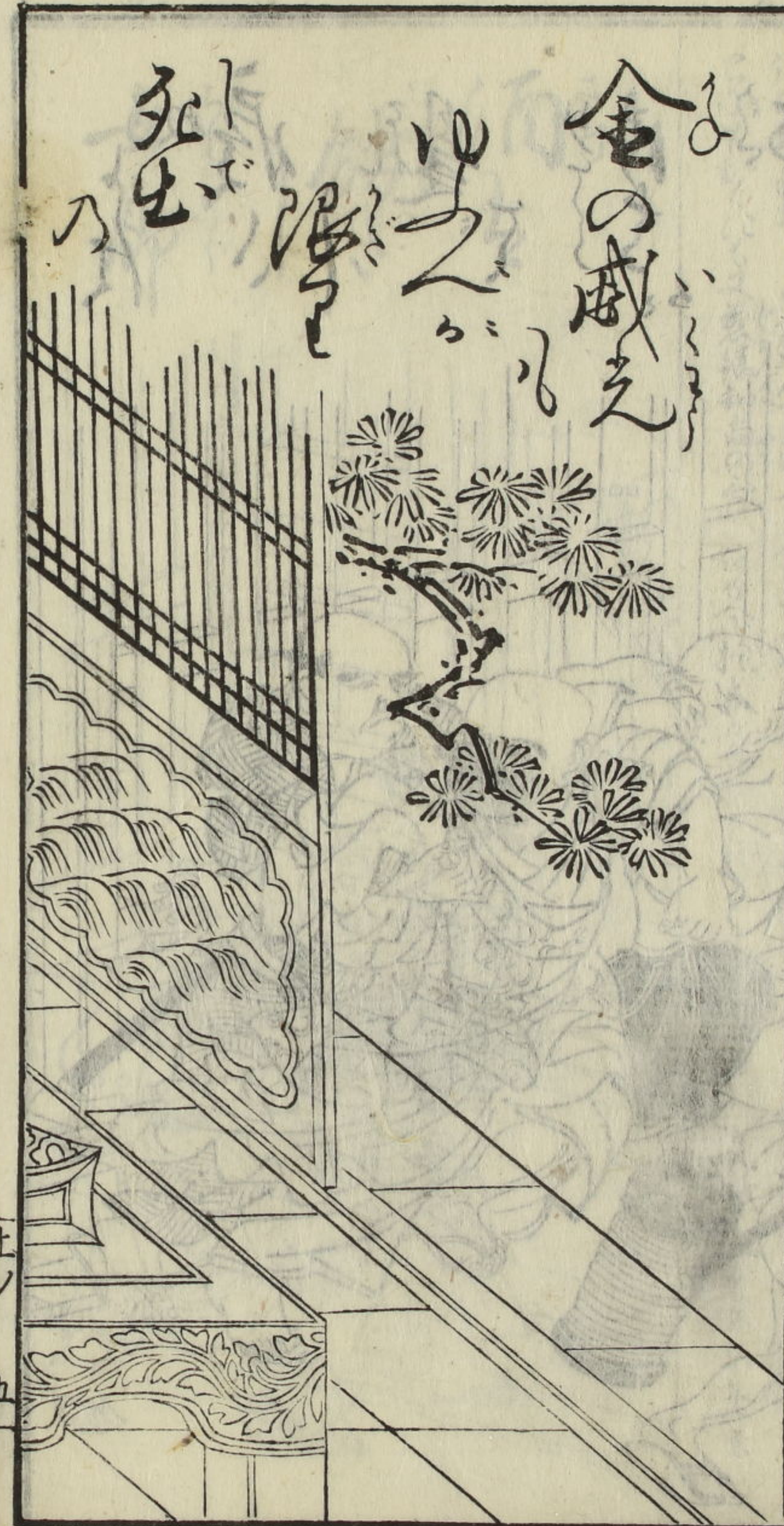


痛いと是れはさしおと



妻子珍寶及王位臨命終時不隨者
 黄金珠玉一只一世の財寶榮花榮耀
 成佛の道心ふくむ生ぬといはる事
 一大事とて

金の威光
 死に
 生ぬ



山
 淋



腹乃之

芳

いふ

力

投

人 ぞい



怒て肝をやふと醫書か見たり肝の内あていうる肝が敵にいうる毒と肝火とにほてりて其後成るがごとくそこあふ甚といふに案じてい必人をととるか人をととる人ばあてわをふくみて我を拂ふと我とわが身と拂ふは清や一朝のいうに甚身と忘れてその親に及とい迷ありと論語か見たり情へさる人又いふに罪と思ふといふ腹の立り出ぬばん成拂ひ我ととさあふ罪罪わらんをさむひとととむべしとを



廣く ひろく
 世界 せかい
 の の
 所 ところ



正
 七

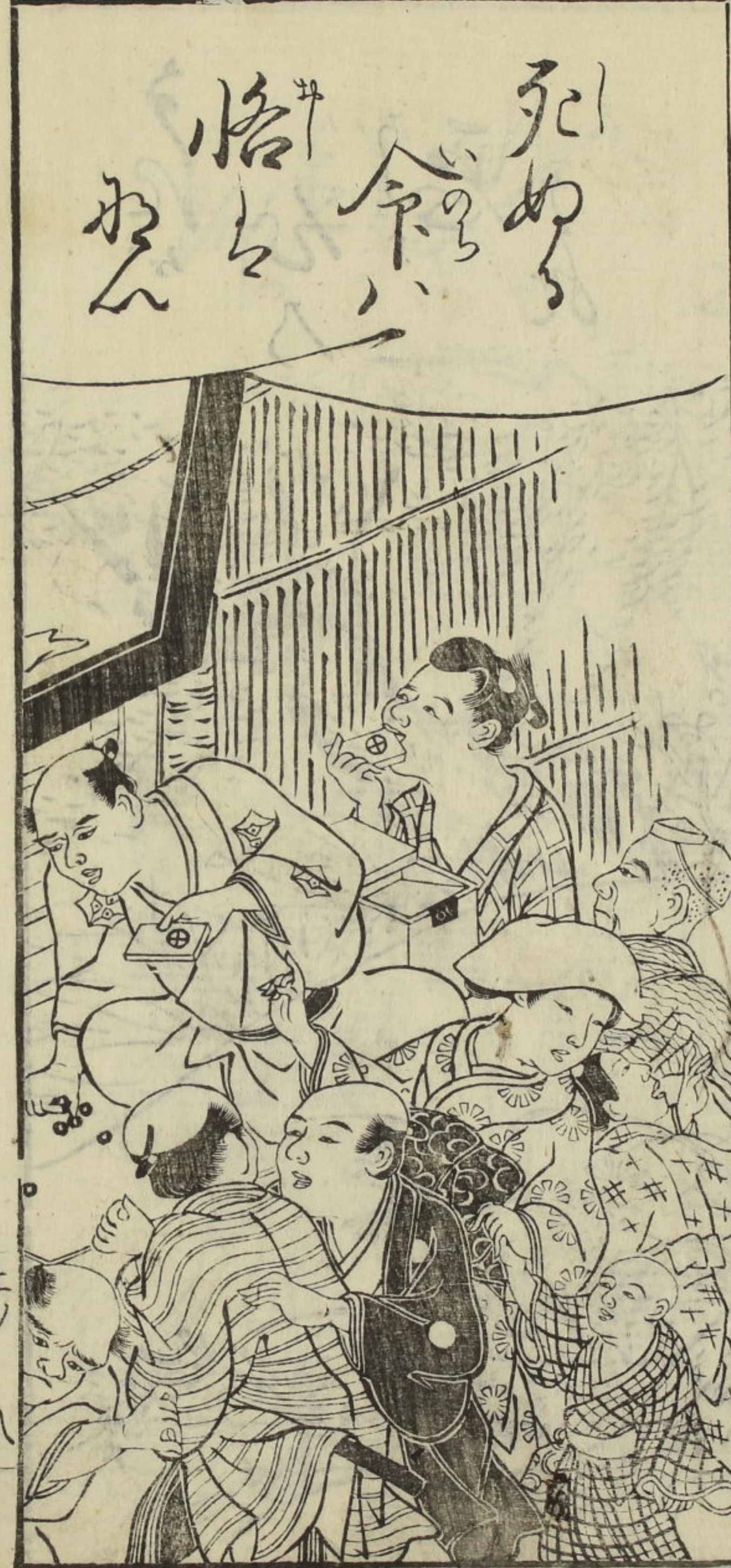
心 こころ
 の の
 悪 あく



信哉斯相佛説正法念經曰閻羅獄卒非實有情以衆生妄業
 力故見之佛ハ演説なり地獄と天宮も鬼畜も修羅も皆足
 一心の所為あり心の鬼が身を責る嗚呼懼ぶる金いんや



これ
あつて
親の
歎
い



死
念
悟
ん

人の親のふとそとほる其辛若くも衆にのびて後にも遺つて其大切なり其の
宝国天下にも入らばなほふつるもの父母の血の肉にて我心うして其方と常にありん
ど一危又ゆるすそるひやがはけがさるものかゝることを保たねばとるるふと父母
の遠逝ん父母の遠逝と知てあてを致せざらんや若くは身替を父母に代りて毀
傷さるゝものありと人々定業来て病臥するは是非なりその所をこそこそ
りらるゝに登りて涙を流りてをさあやうとそこあひやうり不義不孝なりと
成けがらあひひ罪あり入るゝことあり

A black and white woodblock print illustration of two men in traditional Japanese court attire. The man on the left is seated, wearing a patterned robe and a tall, dark cap, looking towards the right. The man on the right is kneeling, also in patterned robes and a cap, gesturing with his right hand. The background features stylized pine branches and a decorative tassel hanging from the top left corner.

一上
九

後人



由^{より}の^{この}裁^さ斯^{ごと}相^あ莊^{じやう}子^し曰^い好^{この}面^{めん}譽^え人^{ひと}者^{もの}亦^{また}好^{この}背^{へい}而^{して}毀^{くわい}之^をと^{この}此^こ意^い相^あ合^あ
 と^{この}今^{こん}世^{せい}勢^{せい}利^りの^{この}場^{ばう}々^々奔^{ほん}て^{この}御^お鬚^すの^{この}塵^{ちん}々^々と^{この}り^り諛^ゆ媚^{めい}て^{この}御^お前^{ぜん}
 追^{つい}従^{じゆ}と^{この}り^りの^{この}甚^{しん}と^{この}り^り多^{おほ}し

人々
凍ふ
凍ふ



世の中の美見いこめといふやうな女の中にもいふやうな女はあつた。その女は、
悪さをするにあらぬ女だといふやうな女はあつた。その女は、
後ふ時に、
凍ふとこゝろで亡びし例歴然あり

年々
入る
若
う



A black and white woodblock print illustration of a man in traditional Japanese attire, possibly a scholar or samurai, standing outdoors. He is wearing a long robe and a headband, and is holding a sword. He is positioned next to a large, gnarled tree with a hollowed-out trunk. The background shows stylized pine trees and a rocky landscape.

白氏長慶集長恨歌云在天願作比翼鳥在地願為連理枝足ハ玄宗皇帝
 楊貴妃と天寶十年七月七日牛女の事ハ感得て更奴の哲言となしなすハ相成
 大鏡小村上天皇宣耀殿の女御小治る誦ふいとての妻あその後の役の世も羽と比る
 多とありなん女御の通くあそふあをあとのそだにもかうづば我もうハせるねと
 ありあん弘法大師を夫妻猶如尾更奴のるハ水もゆるぬやうふ冥ふとて
 のとあり成り更婦乃契かくむけはどくわんとてさうみや

孟子曰以母則不食以妻則食之俗ある哉大和唐土今も亦も同じ
 人ぞろろ小て妻依りてハ其妻小一戸して大切の父母依他ひ
 妻を錦の肌守ふとろりのありあはれといひ入て妻よりも
 父母を錦れとぞよりふありあはれ有る人あり



お守
 父母
 錦の
 肌



明治四年

未正月末之

小泉氏